



やあ! yaa!

URL: <http://tia21.or.jp/>

E-mail: tia@tia21.or.jp



▲豊富な体験談も交えて講話する王さん（中央）

「多文化共生ワークショップ」開催

TIAの多文化共生推進室では、多文化共生普及啓発モデル事業として、日本人と外国人が互いの文化・習慣・考え方などを理解・尊重し、安心して暮らすことができる、多文化共生の地域づくりを推進する事業を行っている。その一環として、平成24年12月1日（土）～22日（土）に中・高校生と大学生を対象とした「多文化共生ワークショップ」をとちぎ国際交流センターと白鷗大学の2会場で開催した。講師は、在日中国人であり、認定NPO法人多文化共生センター東京代表理事の王^{ワン}慧^{フィギン}さん。

講座では、日本における多文化社会の現状を学んだり、事例を用いてグループディスカッションなどを行った。今回の学びを今後の勉学に生かしたいとの感想も多数あり、参加者にとっても実りの多い講座となった。



▲意見交換を行いながらのグループワーク

2013年3月号

No.122

Spring

- ◆やあ! クローズアップ
- ◆国際交流団体紹介
- ◆とちぎに暮らして
- ◆JICA 情報局

インタビュー「陶芸家 瀧田項一氏」
アーシャ=アジアの農民と歩む会
ド・ティ・キム・テュインさん（ベトナム出身）
平成25年度 JICA ボランティア春募集案内

「平成 24 年度市町国際交流協会連絡会議」

県内市町国際交流協会との情報交換を行い、連携の強化を図ることを目的とした「市町国際交流協会連絡会議」を 12 月 13 日(木)にとちぎ国際交流センターで開催した。

今回の会議では、4 つの議題について話し合いがされ、まず、「災害時における外国人支援」のための人材育成関連事業については、電話網の作成、災害対策用窓口の設置などの必要性が挙げられた。日本語ボランティアのニーズや課題については、後継者不足の問題も指摘された。続いて小山市から提議されたボランティアの確保については、会報でボランティアが活躍する記事を掲載することで、活動の楽しさをアピールする、また、さくら市から提議された各種イベントの外国人の参加については、外国人も楽しめる内容に変える、外国人団体に周知するなど工夫すれば増えるのではないかと意見が出され、活発な議論がなされた。



▲活発な意見が出された市町国際交流協会連絡会議

そのほか、栃木県が制作した県紹介 DVD の案内、TIA や各市町国際交流協会のイベントの情報交換を行って、連絡会議を終了した。

「ブラジルの日系高校生が宇都宮東高校で体験通学」

南米等県人会短期研修生受入事業が 1 月 14 日(月)～27 日(日)の 14 日間実施され、ブラジル・サンパウロ州サンロッケ市から、高校 1 年生の館野アンドレッサさんと引率者の森田ルイザさん(在伯栃木県人会所属)の 2 名が来県した。



▲音楽の授業で「ボディ・パーカッション」に挑戦したアンドレッサさん(右)

県への表敬訪問、日光や東京の視察、栃木県海外移住家族会との懇談会などの日程に続いて、アンドレッサさんは栃木県立宇都宮東高等学校で 1 月 17 日～22 日の 6 日間体験通学を行い、英語、音楽、美術、書道、家庭、体育などさまざまな授業や、吹奏楽のクラブ活動に



▲華嚴の滝をバックに(左から引率者のルイザさん、アンドレッサさん)

参加した。また、同校生徒宅にホームステイし、日本の家庭の雰囲気を味わった。

その他、日光市湯元で生まれて初めて体験したスキーでは、何度も転びながらも雪の感触を楽しんだ。

アンドレッサさんは、「親切なホストファミリーや多くの友達に出会うことができてとても良かった」と話し、笑顔で帰国した。

「外国人のための漢字教室」

1 月 9 日から 3 月 13 日の毎週水曜日に、全 10 回コースで在県外国人のための漢字教室をとちぎ国際交流センターで開催している。受講者はフィリピン・ペルー・台湾・中国・ボリビア・ブラジル・アメリカ・マレーシアの 8 か国の 13 人。講師は多文化共生推進室職員が行う。

この漢字教室はパソコンを用いた講座のため、ローマ字入力から漢字漢字やひらがなに変換する操作を行うため、ローマ字変換表を見ながら、慣れない操作に取り組んでいる。そして、今回は Word 操作を学びながら、Word 画面に出てくる漢字も学習できる講座スタイルとなっている。受講者も真剣な表情で講師の話に聞き入り、たえずメモを取る姿も多く見られる。また、タイピングや変換操作も回数を増すごとに早くなり、めきめきと上達している。講座はとてもアットホームな雰囲気で行われており、出席率も高い。この講座が受講生の今後の日本での生活や就職などに大いに生かされることを期待したい。



▲真剣に取り組む受講者

「やさしい日本語」による多文化共生推進についての意見交換会

栃木県との協働事業として、多文化共生推進のため「やさしい日本語」普及事業を展開している。その締めくくりとして、やさしい日本語の実践や課題について話し合う意見交換会を 2 月 21 日(木)にとちぎ国際交流センターで開催した。

アドバイザーとして、一橋大学国際教育センター准教授の庵 功雄氏と武庫川女子大学非常勤講師の金子正子氏を迎え、「やさしい日本語実践セミナー」の受講者や日本語支援者、行政職員、国際交流協会や各種団体の関係者など幅広い分野の方々が参加した。

事例として、鹿沼市や小山市国際交流協会日本語教室の取り組みが紹介された。アドバイザーからは、多文化共生とは相手の立場を思いやること、外国人の話す日本語を受け入れる意識が必要だとの基本的な考え方の提示や、やさしい日本語に関する具体的なアドバイスがあった。

参加者からは、やさしい日本語を通して外国人・日本人の相互理解が促されることややさしい日本語作成には外国人の助けも必要だとの意見が出た。



▲積極的な発言で熱気あふれる意見交換会

瀧田項一さん



陶芸家。栃木県文化功労者。浜田庄司氏に従事していた昭和34年、アメリカのアジア財団の要請により、東パキスタン（現バングラデシュ）の国立美術学院（現ダッカ大学）にて3年間教鞭をとる。現在は那須烏山市で、作陶にあたっている。

一はじめまして。ダッカ大学50周年の式典に招待されたということをお聞きしましたが…。

瀧田 はい。そうなんです。当時はアメリカのアジア財団などが大学に図書を寄付したり、教授の派遣（交換）の援助などをしていました。そのころ大学のよしあしは大学の図書館の規模や蔵書数で評価されていました。パキスタンも東と西に分かれていて、当時中央政府は西にありました。アメリカの財団の援助でダッカ大学から陶芸科を作りたいので講師を招へいしたいという要請を受け、講師を探していました。大学は、講師に対する条件として英語ができること、そして陶芸を教えられる人ということで、私が教えるに行くことになりました。当時ダッカ大学には美術学部がなかったので、独立した国立美術学院に陶芸科を設置しました。国立美術学院と国立美術研究所で3年間、陶芸を教えました。今年は美術学院創設者のジョイヌル・オベディン氏の生誕100年とダッカ大学陶芸科設立50周年の節目の年ということで、名誉教授

の称号を与えられ、表彰されました。

一ダッカでは陶芸をどのように教えられていたのですか。

瀧田 学生は日本語は理解できないので、英語で陶芸を教えていました。日本人が全くなかったので、英語は自然と上達しました。学校側からは、日本の陶芸を教えるように言われたのですが、バングラデシュにもよい伝統工芸技術があると考えた私は、街の中を歩いて調べて、日本にはない現地の伝統工法を伸ばす教育を目指しました。当時学生は6名くらいで、まず土探しから始めました。バングラデシュはデルタ地帯なので、粘土がたくさんありますし、陶芸に必要な硅石は山の斜面にあったので、ジープで探しに行き、土を作りました。田舎の土器を作っている所で、私も学生といっしょに伝統陶磁器の作り方を学びました。

一なるほど。50年ぶりに訪れたダッカはどうでしたか。

瀧田 現地ではプラカードを持って当時の教え子が空港に出迎えに来てくれ、懐かしい人たちに会ったり、パレードに参加したりして楽しい時間を過ごしました。ダッカの街は近代化されて当時の面影はありませんでしたが、大学のエントランスは当時のままで懐かしく感じました。教え子はデザイナーや陶芸家になっていて、頼もしく感じ、バングラデシュの陶芸を盛り上げてくれると思います。今後も社会貢献していきたいと考えています。



▲当時、陶芸科で一緒に教えていたムスタバ先生と再会

国際交流団体紹介

「アーシャ＝アジアの農民と歩む会」

インド…と聞くとどんなイメージをお持ちでしょうか？カレーやターバンに始まり、IT産業、数学に強い国…等様々な印象を持たれている国だと思います。インドは近年急激な発展を遂げていますが、農村部へはなかなかその発展の恩恵が届かず、貧富の差は拡大を続けています。私たちアーシャ＝アジアの農民と歩む会（以下アーシャ）はそんなインドの北部ウッタルプラデシュ州アラハバードの小さな農村で、貧しい人々への支援活動を行っています。アーシャは、現理事長である牧野一穂が40年以上の長期にわたり、北インドで行ってきた農村支援・教育普及等の活動を継続し、さらに発展させていく目的で2004年に発足しました。

アーシャが活動する農村では、インド特有の身分制度であるカースト制度や一部の富裕層が土地を独占する土地制度等の影響で、人々は貧しい生活を強いられています。生活への余裕のなさから、学校へ通えない子供達も多く存在します。また女性を軽視する風



▲アーシャ希望学校の授業風景

潮がある為、特に女兒は男児に比べ学校に通えず、識字率も非常に低く留まっています。インフラも十分ではなく、保健衛生の知識も低い為、新生児死亡率が日本の30倍近くになります。このように、農村の抱える問題



▲農業指導者育成事業の10か月研修で指導者を目指す若者たち

は非常に多岐に渡ります。

この問題を解決し、農村住民の自立と生活の向上を目指して、アーシャでは農村の農業指導者育成事業や学校の建設・運営の支援、母子保健の指導など、様々なアプローチで事業を行っています。当初は懐疑的だった農村の住民も、生活を豊かにするためには教育が不可欠である事を理解するようになり、徐々に協力的な地域も出てくるようになりました。今では支援する農村を少しずつ広げ、より多くの人々を支援していけるよう人材の育成にも力を入れています。

「アーシャ」はヒンディー語で「希望」を表します。私たちは「より持続可能に、より女性の参加を、より子どもに希望と教育を」の言葉を胸に、インドの恵まれない農村の人々に将来への夢や希望を与えられるよう、これからも草の根の国際協力活動を行って参ります。また、国内での拠点は栃木県に構えておりますので、県内のイベント等で多くの方々にアーシャの活動を知って頂けたらと思います。興味をお持ちの方は是非お声かけください。（文：事務局 丹羽寿美）



▲母子保健推進事業での健康診断の様子

とちぎに暮らして… Living in Tochigi



ド・ティ・キム・ティンさん

(ベトナム出身・宇都宮市在住)

2009 年に来日し、日本人のご主人と結婚。
現在は、警察などでベトナム語通訳を行っている。

—はじめまして。日本にはいつ来られたんですか。

ももとはベトナムに進出している日本の企業で働きたいと思い、ホーチミン市内にある一番大きな日本語の専門学校で勉強していました。社会人と日本語を学ぶ学生の食事があり、そこでたまたま、仕事の関係でベトナムに来ていた今の主人と席が隣同士になり、話をしたのがきっかけで、その後交際が始まり、2009 年 6 月に初めて日本に来て、12 月に結婚しました。本当にスピード結婚でした(笑)。

—そうだったんですね。日本の生活はいかがですか。

私自身、ホーチミン市出身ですが、東京は人が多くて初来日した時は窮屈なイメージだったのですが、宇都宮は人も東京ほど多くなくて、いろいろなものがそろっていてすごく住みやすい街だと思いました。東京は緑が少ないと思いましたが、宇都宮は公園もあり緑が多いように感じました。日本語については交際中、

今の主人と約一年ほどスカイプで毎日のように話してましたので、ほとんど生活には困らなかったです。ただ、来日当初はベトナム語を話せる友達もいなかったの、ホームシックになりました。

それから失敗もしました。結婚当初、みりんと油の色が似てるので、間違えて炒め物をして焦がしてしまいました。

日本で 3 月 11 日の大震災を経験しましたが、パニックにならずにきちんと並んだり、みんなマナーがいいと感心しました。ただ、ごみの分別はちょっと大変ですね(笑)。また、2011 年 7 月から 5 か月ほど、オリオン通り(宇都宮市)で、主人がオーナーになっている「サイゴンカフェ」で店長をしていました。ベトナムコーヒーやベトナムの軽食(フォーや生春巻き)を提供していたのですが、接客業は初めてだったので店長としてスタッフと打ち合わせなどもしなくてはならず、とても緊張しました。今となってはいい経験だったと思います。



▲ホーチミン市中心部ベンタイン市場前

—なるほど。最後に今後の抱負を聞かせてください。

今は、警察の司法通訳をしています。今後は学んできた日本語を生かし、もっと専門的な通訳をしていきたいと思っています。

JICA 情報局

JICA ボランティア募集 【募集期間：4/1～5/13】

これまで皆さんが日本で経験してきたことを、海外に舞台を移して JICA ボランティアとして生かしてみませんか？

開発途上国の人びとのために、自分の持っている技術や知識を生かしてみたい！ そうした意欲を持っている方を派遣するのが JICA のボランティア事業です。

私たちができること、世界の人たちが明日への希望をもてたら。それはきっと、あなたの心も満たす素晴らしい経験になるはずです。

～ 経験者と直接話せる ～

『募集説明会 & 体験談 in 宇都宮』

入場無料！予約不要！

【日時】4 月 20 日(土)

【会場】とちぎ国際交流センター

【経験者参加人数】10 名



青年海外協力隊 & 日系社会青年ボランティア (20 歳～39 歳)	シニア海外ボランティア & 日系社会シニアボランティア (40 歳～69 歳)
13:00～16:30	9:30～11:30

【問合せ】TIA 内 JICA 栃木デスク 028-621-0777

TIA では「TIA 携帯情報サービス」ユーザーを随時募集しています。
ご登録・詳細についてはこちらをご覧ください。

<http://tia21.or.jp/new/keitai.pdf>

TIA バナー広告募集中

TIA では、ホームページに掲載するバナーを募集しています。企業での各種キャンペーン告知、お店の PR など自由に活用していただけます。月額 2,000 円で 1 か月からでも可能です。TIA ホームページの「バナー広告募集中」をクリックしていただくと掲載申し込みの詳細が記載されていますので、ご一読のうえご検討をお願いします。

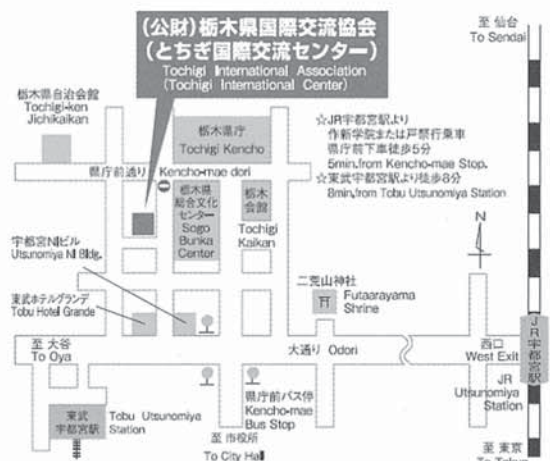
☆バナー広告に関するお問い合わせ・お申し込み☆

TEL 028-621-0777 FAX 028-621-0951

Email tia@tia21.or.jp

ホームページ案内 <http://tia21.or.jp/banner.html>

TIA ご案内図



編集・発行 公益財団法人栃木県国際交流協会
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町 9-14 とちぎ国際交流センター内
T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
F A X 028-621-0951
業 務 時 間 8:30～17:15
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日